



可能性も「規格外」



身長203cm、体重165kg。屈指な選手が集うラグビー界にあってもその巨漢ぶりはひときわ目を引く。しかも、高校1年生である。中国人の両親を持ち、日本で育った大阪・興国高の馮佳成選手(16)は、まだラグビー歴数カ月だが、無限の可能性を秘めている。

靴のサイズは32号で、制服は6しの特注品。教室の机も椅子も通常より一回り大きい。中学時代、既製品の椅子が何度も壊れてしまったため、地元の大坂・八尾市の教育委員会が特注した

ものを高校でも使用する。電車通学の単中も注目的で、知らない人からよく話しかけられ、時には「写真を一緒に撮って」と言われることさえあった。大ききゆえの悩みもある。年間バスを賣うほど大好きというユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)だが、身長2桁を超えた中3の冬から「安全バーが閉まらなくなったりして、乗れるものがなくなった」。

小中学生時はさまざまなスポーツに取り組んできたが、楯岡球には触れたことがなかった。転機は昨夏、大阪市内であった私立高校の合同説明会だった。興国高ラグビー部でゼネラルマネージャー(GM)を務める伊藤矢一さん(35)から声をかけられた。

長野・菅平高原で夏に開催されている、体格やスピードが魅力的な高校生を集めた合宿「ビッグマン&ファストマン(B&F)キャンプ」でコーチを務める伊藤さん。大きな選手は見慣れ

馮佳成(興国・1年)



ていたが「本当に中学生か。こんなでかいやつに会ったことがない」と驚いた。入試広報室渉外部長として参加していたが、「原石」を発見し「うちにこいよ」と声をかけた。

本人は「ラグビーはやったことがないし、ぶつかり合うのが怖そうで嫌だった」と振り返る。それでも、1週間

後のオープンスクールを訪れ、ラグビー部の体験会にも参加。「難しかったけど、みんなでボールを追いかけるのが楽しかった」と、進学とラグビー部に入ることを決意した。

今夏はB&Fキャンプにも参加した。「タックルの当たり方もまだまだだし、スピードもないけど、スクラム



●チームメートと談笑する馮佳成選手(右から2番目)。左の2人はトンガ人留学生で180cm以上あるが、馮選手が頭一つ抜けている

●教室の椅子に座る馮選手。机も椅子も一回り大きい。一番後ろが「指定席」だ。いずれも大阪市天王寺区で9月21日

で押し勝った時は楽しい」と笑顔で語る。今はプロップだが、将来的にはロックやノ8にも挑戦したいという。伊藤さんも「世界レベルで戦う上で、大きさは重要」と期待をかける。

対外試合でのトライはまだないが、8月の紅白戦で相手がノックオンした球に素早く反応してキャッチし、インゴールまで駆け抜けた。その初トライが「一番、気持ち良かった」という。

10月28日に初戦を迎える全国高校ラグビー大会大阪府予選には、まだ出場できるかわからず、「実力がまだまだ追い付いてない。じっくり練習していきたい」と話す。目標は大きい。「将来は日本代表になれたら」

もう一つ、夢がある。「いつか両親に新しい車を買ってあげたい」。興国の地の工場で共働きしながら、自らを育ててくれた両親へ親孝行がしたい。「気は優しく力持ち」。この言葉がぴったり当てはまる、規格外のアスリートだ。【大東祐紀、写真も】

「SPORTS かんさい」は
毎週火曜日掲載です。